

● 共同研究～自動車産業への取組み～

前述の3テーマごとに組成された共同研究チームでは、調査研究活動の成果として業界レポートや産業読本などの編集作業をすすめています。今回はその中から、「自動車産業への取組み」について紹介いたします。

ご周知のとおり、九州においては自動車産業が最大の製造業種であり、特にこの数年間は生産台数が100万台を突破するなど、大きな成長を遂げています。同時に部品関連企業の集積も進んでいますが、九州内での部品調達率は中部地域など他の生産拠点に比べ、まだ十分とは言えない状況です。

九州が、今後も国内有数の自動車生産拠点としての地位を保つには、産業集積を高め、部品の地元調達率を上げることが不可欠です。それには、九州外からの企業進出に加え、地場企業の新規参入動向が大きな要因を握ると考えられています。

そこで、自動車産業の共同研究では、高度な生産・品質管理体制を誇り、世界的な競争力を持つ産業であるがゆえに、地場企業の新規参入が非常に難しいとされる点に着目した調査活動を行いました。

2000年以降に自動車産業へ新規参入もしくは設備投資を行った企業を対象に、九州各県の工場を視察し、企業経営者や工場責任者の方々から「新規参入時の課題」「課題克服に向けた活動」などについて様々な教示を得ました。それらを集約し、各社の取組みや傾向を分析した業界レポートとして、自動車参入事例集を9月中旬に発行する予定です。

● 業界レポート～自動車参入事例集～

ここからは、業界レポートの内容について説明いたします。

この業界レポートは「地場企業の自動車産業への新規参入事例研究(仮題)」として、A4判約130頁程度にまとめます。

なお、小報「2008年6月号VOL.1 12～15ページ」において、レポート概要の一部を掲載しておりますので、ご参照頂ければ幸いです。

【レポート構成】

序章 九州における自動車部品関連企業の立地動向

第Ⅰ部

第1章 自動車参入までの軌跡

第2章 地場企業の新規参入に向けた取組み

第3章 地場企業の自動車関連産業への新規参入に向けて

第Ⅱ部 取材先企業の個社ごとの参入事例

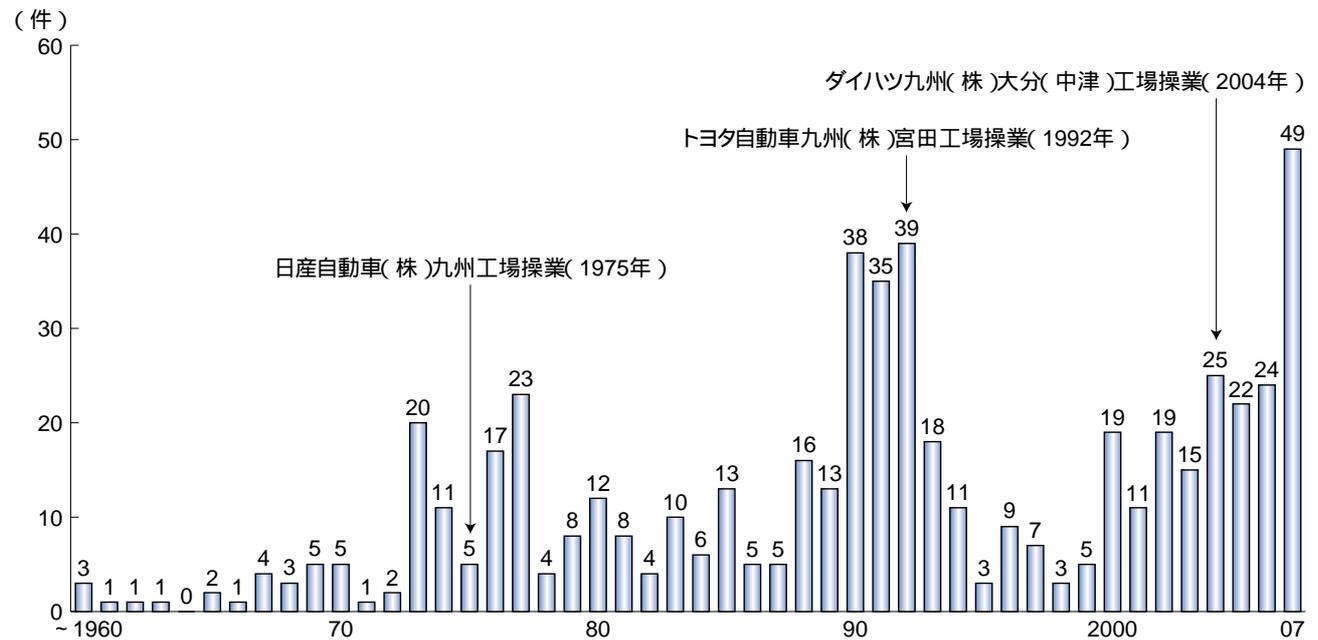
次頁では各章の内容について紹介します。

表3 自動車産業レポートの概要



(出所) ぶくおかフィナンシャルグループ作成

表4 九州における年次別自動車部品工場の進出・参入状況



(出所) 九経調「九州経済調査月報(2007.12)」より

● 序章～九州における自動車部品関連企業の立地動向

序章では自動車部品関連産業の立地動向を分析し当該企業の類型化を行います。

九州における現代の自動車産業の歴史は日産自動車(株)九州工場の操業(1975年)とともに始まり、トヨタ自動車九州(株)の進出(92年)、ダイハツ車体(株)(現・ダイハツ九州(株))の進出(04年)および各社の相次ぐ生産体制増強方針によって、現在では生産能力150万台超を覗うほどの、世界有数の自動車生産拠点となりました。

この生産能力増強に歩調を合わせる形で、自動車部品工場の九州域外からの進出と地場企業の自動車産業参入が進んだことを示すのが、上記の表4です。単年度では07年の49件が最多となっており、今後も進出・参入企業の増加が予想されます。

また、自動車部品関連産業には多くの企業が直接的・間接的に携わっています。

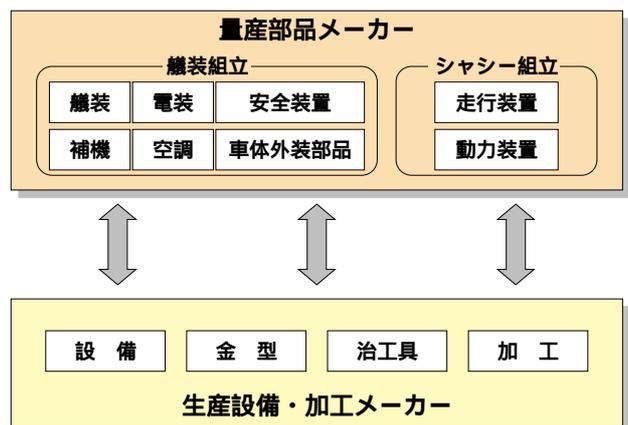
今回の調査では、主に「量産部品メーカー」と「設備・加工メーカー」を対象として、地場

企業の新規参入の現状と課題について考察しています(表5参照)。

「量産部品メーカー」は高品質を維持した大量・低コスト生産、ジャストインタイム納品など、製造業の中で最も厳しい生産体制が必要とされます。また「設備・加工メーカー」は量産部品製造に不可欠な分野ですが、同様に高い品質や低コストでの対応が必要とされます。

いずれの分野においても、新規参入を目指す地場企業にとっては高い参入障壁だと考えられています。

表5 自動車部品関連企業の類型化



(出所) 本件調査より九経調作成

● 第Ⅰ部～先行参入企業の取組みに学ぶ、新規参入のポイント

「第1章 自動車参入までの軌跡」

第1章では、取材先企業が新規参入時に経験した苦悩や、受注拡大に向けた社内環境づくり、自動車産業と他産業との違いなどを取り上げています。

成功の確信どころか「うちでは自動車はやれない」という先入観を克服することから始まり、本格参入に至るまでに経験する苦悩や戸惑い、取引開始までの過程など、各社の経験談を基に、参入に成功した企業に共通するポイントについて分析しています。

また、社内環境づくりでは、人材育成、先行設備投資、資金調達などのポイントについて触れています。自動車産業と他産業との違いとして、自動車産業のメリットや納入先との深い協力関係などを説明し、地場企業と九州への進出企業との考え方の違いを分析しています。

「第2章 地場企業の新規参入に向けた取組み」

第2章では、先行企業の新規参入後の対応を、QCDC(品質、価格、納品対応)を中心とした取組みについてまとめています。

なかでも、従来のモノづくりとは決定的に「生産管理・品質管理の対応」と「コスト対応」の点で異なること、そのベースにある「考え方の違い」を克服するために必要な「人材の確保・育成」「組織を引っ張っていくキーマンの存在」などについて紹介しています。

「第3章 地場企業の自動車関連産業への新規参入に向けて」

第3章では、地場企業の新規参入に向けたポイントを、先行企業の経験を基に再整理し、次

の5項目に分けて、それぞれ説明を加えています。

- (1) 参入に向けたプロセス : 意志の明確化・目標設定の重要性
- (2) 事前準備～受注環境づくり : 人材・設備・資金の事前準備
- (3) 実践準備～生産体制の整備 : 生産・品質管理などの要点整理
- (4) 自動車産業への参入・受注の拡大 : 改善・提案できる企業へステップアップ
- (5) 自動車産業参入支援のあり方 : 行政・金融機関への要望

● 第Ⅱ部～取材先企業の個社ごとの参入事例

第Ⅱ部では、共同研究取材先の各企業の参入事例を、「新規参入時の課題」「課題克服に向けた活動」にスポットをあてて紹介しています。各企業のご協力をいただき、参入に成功された企業の具体的な取組み事例を開示しており、新規参入を検討される企業にとって、大変参考になるものではないかと考えます。

● おわりに

冒頭に述べましたとおり、レポートは「地域経済の活性化と地場産業の振興」を目的に作成いたします。少しでも皆様のビジネスのヒントになれば幸いです。

ふくおかフィナンシャルグループでは、今後も地域のお客様に向けた効果的な情報発信に努め、九州の自動車産業の振興を通じて、地域経済の活性化に貢献することを目指して参ります。

(今村 光男)